

民主主義の

危機

脱原発 つなぐ力

国や自治体抗議つづし

事故は終わってない 福島と思い共有を

つながろうフクシマ!
ようなら原発 大行動

「国境なき記者団」による、世界の報道の自由度ランキング。
日本は調査対象国179ヶ国中、53位である。
この不透明な国で、最高法規である憲法の行方は国家に委ねられてよいのだろうか…。

「平和・人権・民主主義を考える」西濃憲法集会2013

新聞記者がホンネで語る 原発、改憲とメディア



講師 東京新聞特別報道部デスク
田原 牧さん

東京新聞（中日新聞東京本社）の原発報道に対し、昨年10月15日菊池寛賞（日本文学振興会）が贈られた。受賞理由は原発事故がなぜ起きたのかを調査報道の手法で探り、情報を隠蔽しようとする政府・東京電力を告発し続けた「果敢なるジャーナリズム精神」に対して、としている。
今話題の『こちら特報部』デスクの田原氏に、原発、改憲を本音で語ってもらう。

5月3日（憲法記念日）

開場午後1時 午後1時30分～午後4時
大垣市ソフトピアジャパン1F セミナーホール
＜入場無料＞託児有り（事前予約要）

主催 / 「平和・人権・民主主義を考える」西濃憲法集会2013 実行委員会
大垣市室町2-25 弁護士法人ぎふコラボ西濃法律事務所内
TEL: 0584-81-5105 E-mail: seinolaw@nifty.com

－ 憲法は何のためにあるのかを考えよう。－

1947年5月3日に日本国憲法が施行されてから今年で66年になります。日本国憲法は、これまで何度も「改憲」の動きにさらされてきましたが、今ほど、「改憲」が現実味を帯びて感じられるときはないのではないのでしょうか。

自民党は昨年4月に「日本国憲法改正草案」を発表しましたが、その内容たるや、天皇の元首化に始まり、天賦人権説を否定して基本的人権の制限を大幅に拡大し、国民に憲法尊重義務を課すなど、日本国憲法の理念を否定するだけでなく、本来、国が守るべき憲法を、国民が守るべき憲法に作り変えてしまうという、近代市民国家以前のものです。近代立憲主義が否定されたその先には、政府の暴走に歯止めがかからず、人権や民主主義が踏みみにじられた社会しかありません。さらにその先には、集団的自衛権の行使や国防軍の創設にみられるように、「戦争ができる国家」への道が連なります。

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、福島第一原子力発電所では重大な事故が起こり、放射能の拡散による汚染はチェルノブイリ事故を大きく上回るものとなりました。しかし、事故の情報や放射能の拡散の実態は、政府によって隠ぺいされ、私たちには真実が伝えられていません。大震災や事故は戦後日本社会のあり様を問うているといえますが、国民にその情報が明らかにされていないのです。

今回、原発報道で群を抜く東京新聞の特報部デスクの田原牧さんをお招きすることができました。原発事故や改憲問題を切り口に、「メディアの役割とは何なのか」を「本音」で語っていただき、主権者である私たちはこれから何をしなければいけないのかを考えていきたいと思います。

西濃憲法集会2013に是非ともご参加いただけるように呼びかけます。

講師 田原 牧さんプロフィール

たはらまき / 1987年中日新聞社入社。社会部を経て、その後カイロ支局に勤務。現在東京本社（東京新聞）特別報道部デスク。東京新聞「こちら特報部」記事は、中部地方では中日新聞『特報』として報道され、原発問題や憲法改悪の危険性を鋭く追求する内容が際立っている。戸籍上は男性、トランスジェンダーを公表。

著書：「中東民衆革命の真実」（集英社新書） / 「ほっとけよ」（ユキピタス・スタジオ） / 「新聞記者が本音で答える『原発事故とメディアへの疑問』」（クレヨンハウス）

プレ企画第1弾

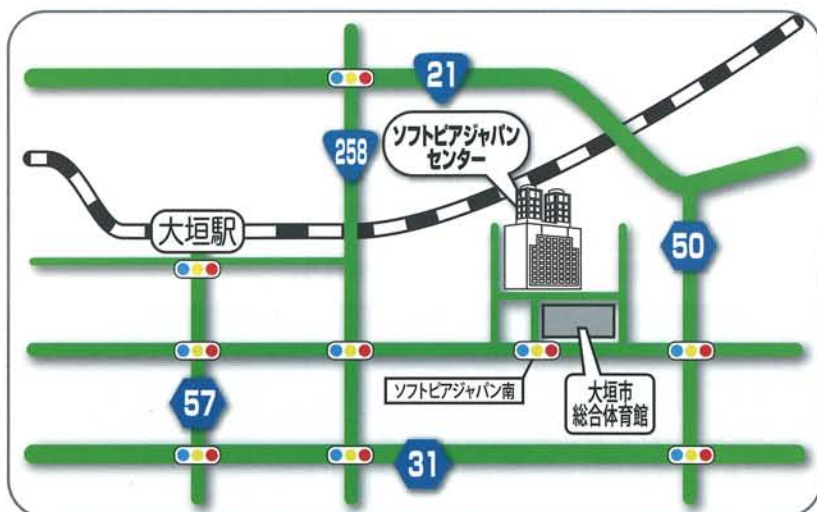
ようこそ先輩 平和課外授業

4月20日(土) 午後1時30分
～午後3時30分

場所:大垣市北地区センター1Fホール
シンポジウム

「私が思う平和とは」

パネリスト/ジャーナリスト久保田弘信さん



プレ企画第2弾

憲法改悪とマスコミ

4月21日(日) 午後3時
～午後5時

場所:大垣市スイトピアセンター

講演:テレビが世論をつくる危うさ

講師:岐阜大学 准教授

野原 仁氏

西濃憲法集会 2013 の成功のために協賛金のご協力をおねがいします。

(協賛金の受付 郵便振替口座 00870-6-101-487 加入者名 近藤ゆり子)